

・ 経験目標と評価

< 救急科 >

A. 一般目標

救急科では、医療人として必要な基本姿勢を修得するとともに
プライマリーケアの基本的診療能力を身につける。また、傷病に応じたトリアージ
能力を高めるとともに、救急疾患の初期治療に関する臨床的知識・技術を修得する

B. 行動目標、方法および評価

	行動目標	研修方法	評価方法
身体診察法	救急患者は最も切実に医療の助けを求めている患者であることを認識し対応することができる	実習	観察
	全身にわたる身体診察を系統的に実施し記載できる	実習	カルテ評価
	初期診療についての「インフォームド」コンセンサスが実施できる	実習	観察
	死亡した場合に法的処置も含めて正しく対処できる	実習	カルテ評価
基本的な検査	患者の状態と疾患に応じた検査項目を指示施行することができる	実習・自習	カルテ評価
	検査結果を正しく判断し、結果を解釈できる	実習・自習	カルテ評価
	X線、CT検査における重要臓器に関する主要変化を指摘できる	実習・自習・講義	口頭試問
基本的手技・治療法	ACLSを実施できBLSを指導できる	シミュレーション、講義	観察
	蘇生術の適応を決めることができる	シミュレーション、実習	観察
	気道確保を実施できる	実習	観察
	気管挿管を実施できる	実習	観察
	人工呼吸（徒手換気を含む）を実施できる	実習	観察
	閉胸式心マッサージを実施できる	実習、講義	観察
	末梢静脈の確保ができる	実習、講義	観察
	適切な救急薬剤を理解し投与できる	実習、講義	観察
	除細動についての知識を習得し実施できる	シミュレーション、実習	観察
	静脈および動脈採血を実施できる	実習	観察
	胃管・膀胱カテーテルの挿入ができる	実習	観察
	局所麻酔法を理解し実施できる	実習、講義	観察
	大量出血に対して圧迫止血法や救急処置ができる	実習、講義	観察
	切開排膿およびデブリドマン、創洗浄ができる	実習、講義	観察
軽度の外傷・熱傷の処置ができる	実習、講義	観察	

	輸液の種類を理解し、すみやかに実施できる	実習、講義	観察
	輸血の適応・副作用を理解し実施できる	実習、講義	観察
頻度の高い症状	全身倦怠感	実習、講義	口頭試問
	食欲不振	実習、講義	口頭試問
	R 発疹	実習、講義	レポート
	R 視力障害、視野狭窄	実習、講義	レポート
	R 結膜の充血	実習、講義	レポート
	聴覚障害	実習、講義	口頭試問
	鼻出血	実習、講義	口頭試問
	嘔声	実習、講義	口頭試問
	R 腰痛	実習、講義	レポート
	R 関節痛	実習、講義	レポート
緊急を要する症状・病態	心肺停止	実習、講義	口頭試問
	ショック（心原性、出血性、アフラキソ）	実習、講義	口頭試問
	意識障害	実習、講義	口頭試問
	脳血管障害	実習、講義	口頭試問
	急性心不全・急性冠症候群	実習、講義	口頭試問
	急性呼吸不全	実習、講義	口頭試問
	急性腹症	実習、講義	口頭試問
	急性消化管出血	実習、講義	口頭試問
	急性腎不全	実習、講義	口頭試問
	外傷	実習、講義	口頭試問
	急性中毒	実習、講義	口頭試問
	誤飲・誤嚥	実習、講義	口頭試問
	熱傷	実習、講義	口頭試問
経験が求められる疾患・病態	B 湿疹・皮膚炎群 （接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎）	実習、講義	口頭試問
	B 蕁麻疹	実習、講義	口頭試問
	C 薬疹	実習、講義	口頭試問
	B 皮膚感染症	実習、講義	口頭試問
	B 骨折	実習、講義	口頭試問
	B 関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷	実習、講義	口頭試問
	B 骨粗鬆症	実習、講義	口頭試問
	B 脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）	実習、講義	口頭試問
	B 男性生殖器疾患 （前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍）	実習、講義	口頭試問
	B 屈折異常（近視、遠視、乱視）	実習、講義	口頭試問
	B 角結膜炎	実習、講義	口頭試問
	B 白内障	実習、講義	口頭試問
	B 緑内障	実習、講義	口頭試問
	C 糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化	実習、講義	口頭試問
	B 中耳炎	実習、講義	口頭試問
	C 急性・慢性副鼻腔炎	実習、講義	口頭試問
	B アレルギー性鼻炎	実習、講義	口頭試問
	C 扁桃の急性・慢性炎症性疾患	実習、講義	口頭試問

	<input type="checkbox"/> 外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物	実習、講義	口頭試問
	<input type="checkbox"/> 性感染症	実習、講義	口頭試問
	<input type="checkbox"/> 寄生虫感染症	実習、講義	口頭試問
	<input type="checkbox"/> アレルギー疾患	実習、講義	口頭試問
	<input type="checkbox"/> 中毒（アルコール、薬物）	実習、講義	口頭試問
	<input type="checkbox"/> アナフィラキシー	実習、講義	口頭試問
	<input type="checkbox"/> 環境要因による疾患 （熱中症、寒冷による障害）	実習、講義	口頭試問
	<input type="checkbox"/> 熱傷	実習、講義	口頭試問
特定の医療現場の経験	速やかにバイタルサインのチェックができる	実習、講義	口頭試問
	緊急度・重症度が判断できる	実習、講義	口頭試問
	A C L Sを実施でき、B L Sを指導できる	実習、講義	口頭試問
	初期治療を施行しつつ、適切な専門医に連絡する状況判断ができる	実習、講義	口頭試問
	大災害時の救急体制を理解し、自己の役割を把握できる	実習、講義	口頭試問

A: 入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例レポートを提出すること

B: 外来診療又は受け持ち入院患者（合併症含む）で自ら経験すること

C: 機会があれば経験すべき疾患

D: 自ら実施し、結果を解釈できること

R: レポートを提出すること

< 救急科 > 週間スケジュール

一年次 2 ヶ月、二年次 2 ヶ月は、E R でプライマリーケア及び救急診療に関して研修する。
E R 研修では診療時間内に救命救急センターを訪れる walk in、救急車の患者に関する
診療に対応する。

診療時間外に救急センターを訪れる walk in の患者、救急車の患者はすべて当直医、副直医
が初期対応する。重症の入院患者は救命救急病棟に入院し、入院後は集中治療科当直医が責
任をもって対応する。

	月	火	水	木	金
本日の担当医	A	B	A	B	A
8:30-9:00	申し送り 入院症例検討	申し送り 入院症例検討	申し送り 入院症例検討	申し送り 入院症例検討	申し送り 入院症例検討
9:00-9:15	今週の研修目標（指 導医）	E R 診療	E R 診療	E R 診療	E R 診療
	E R 診療				
昼休み					
14:00--17:30	E R 診療	E R 診療	E R 診療	E R 診療	E R 診療
17:30-	本日のまとめ	本日のまとめ	本日のまとめ	本日のまとめ	今週のまとめ

研修医が当直帯に疑問に思った症例についての相談日を 2 回 / 月 設定し E R 寺子屋塾を
実施

毎月最終木曜日に多職種（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師、事務）による
「E R カイゼン会議」に参加し、E R のカイゼン活動について討議する

隔月に開催される豊田市消防救命救急士との合同症例検討会に参加し、主として心肺停止
患者症例の検討に加わり、関連する講演も聴取する